放送大学情報化社会研究会 会報

Association for Information Society and Media Studies

第 4 号
2016.3.22

Contents of No.4

随 想 ①	揉みから紙に魅せられて 4 半世紀	古内 都……	p.1
随 想 ②	兌下兌上（だかだしょう）	佐藤 順……	p.4
随 想 ③	ホームズ、ドイルで遊ぶ	中西 裕……	p.6
随 想 ④	（この記事は非公開です）	……	p.8
近況報告	光陰矢の如し	上野滋男……	p.12
お知らせ	2015 年度定期総会開催のご案内	大津昭浩……	p.13
編集後記		柏倉康夫……	p.14

// 随想① //

揉みから紙に魅せられて 4 半世紀

古内 都

私が「揉みから紙」に出会ったのは次のような次第です。

平成 3 年 7 月、よみうりカルチャー自由が丘教室「表装入門～掛け軸・屏風～」に入会し、そこでいきなりある先輩から、揉みから紙の第一人者である松田喜代次氏の指先から生まれる揉みから紙の良さと、氏が高齢であること、技術を継承する人がいないことを挙げられ、その揉みから紙を今、手に入れておく必要性を力説されました。その良さがよくわからないままに、表装材料店の展示即売会で揉みから紙（小揉み）色違いを 3 枚求めました。

その時、奥の椅子に座っていた店主と思われる老人に鋭く「礬膠（ドーサ）液を引いたらいけませんよ！」と声を掛けられました。並みの表装用裂地（きれじ）より高価な、そして年々値上がりする揉みから紙をその後も機会あるごとに 2～3 枚ずつ買いためていきました。

では「揉みから紙」とは、どのようにして作られるのか。そもそもこの紙はどんな特徴があるのか。「揉みから紙保存会」が出しているパンフレットには次のように記されています。

歴史を辿る

揉みから紙が作られ始めた時期を特定するのは困難ですが、その背景を探ると、利休のわび茶の精神にゆき当たります。そして、揉みから紙の用途として紙表具が思いうかびます。文献では、千利休による「春浦文」が紙表具の初めとされており、以後、消息や一行などに揉みから紙が用いられてきました。揉みから紙が京から紙の技法のひとつとして確立したのは江戸時代と考えられます。その後も揉みから紙は茶の湯と盛衰を共にし、大正時代に全盛期を向かえ

ました。しかし戦後、茶の湯の世界も変化し、紙表具を用いる草庵での茶会はほとんど姿を消しました。そういう困難な時代にも、揉みから紙の技法にさらに磨きをかけ、作り続けた人に松田喜代次氏がいます。趣味人でもあった松田氏の指先から生まれた揉みから紙は、伝統工芸品として高い評価を受けました。

製作工程

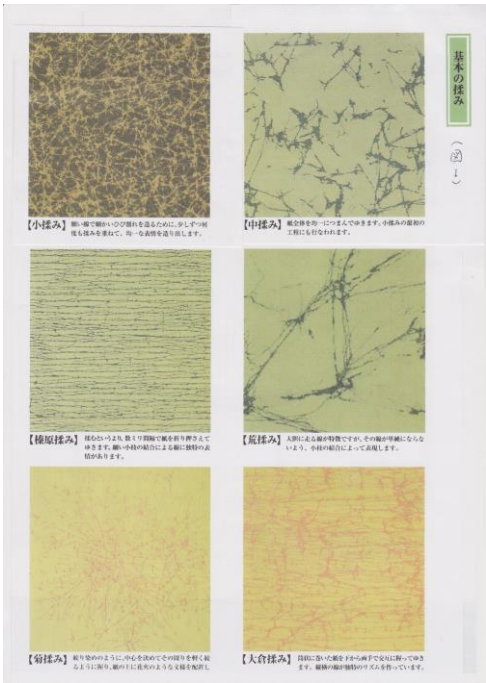
顔料・フノリの準備→下地のための具の調合→下地の刷毛引き→乾燥→上地のための具の調合→上地の刷毛引き→乾燥→揉み→仕上げ

材料

和紙・顔料・フノリが主な材料です。揉みの種類により、使用する和紙やフノリの量を加減します。

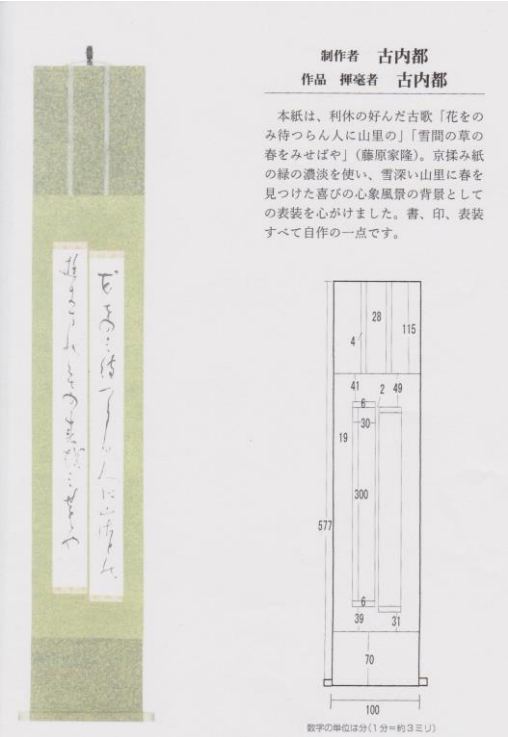
その表情

揉みから紙には、紙を揉むことにより表れる文様の形などから、いろいろな名前がつけられています。基本となるのは、無地・小揉み・中揉み・荒揉み（大揉み）・榛原（灰原）揉み・大倉揉み・菊揉みの 7 種。それらの応用や組み合わせによる縞絣揉み・菱菊揉み・山水揉み・菊水揉み・霞揉み・網揉み・大正揉み・松葉揉みは松田家（屋号・唐喜）のオリジナルであると言われています。また色調やその組み合わせにより、美しさは無限に広がります。



書や絵の作品を掛け軸に仕立てる作業は、あくまでも作品の芸術性を邪魔することなく、その魅力を最大限に引きだせるようにすることです。ですから、表装の材料選び、その取り合わせが大切で、それが決まると 7 割がた仕上がったことになります。

私はこれまで掛け軸作りに、揉みから紙を好んで使用していますが、最近、篆刻をする友人の作品に揉みから紙を取り合わせたところ、作品全体の表情がしっくりと良い味わいになりました。作品を際立たせるのみならず、1 枚の表装材料（揉みから紙）として見ていた時よりも、掛け軸になった揉みから紙からは奥深い美しさが匂い出てきたのです。



この執筆にあたり『技術記録・揉みから紙―技法とその美しさ』（2002.6.23 編集・発行「揉みから紙保存会」）、を読んだところ「日本の茶人たちは、茶の風体や美しさを、四季おりおりの風景に託して述べることがよくあった。・・・揉みから紙の美がそのいずれにあたるか、5 つの風体の中で④冬―枯れ木の雪の美―冷え枯れ⑤早春―雪間の草の美―冷えやさし‘春をのみ待つらん人に山里の雪間の草の春を見せばや’（藤原家隆）揉みから紙の二大美として‘冷え枯れの美’‘うつろいの美’（無常の美）をあげてみたのである。（倉澤行洋）」とありました。二十年前に自作の書作品（家隆の和歌）を揉みから紙（緑の濃淡）で掛け軸に仕立てたもの（右図）が、理にかなった取り合わせであったことを知り、嬉しい思いをいたしました。また、松田氏への聞き取りの文章の中に、「作品保護のために、揉みから紙に礬膠液を塗ることは、揉みから紙の表情を損なうのでしない方がよい。」と、書かれており、揉みから紙に出会った時のあの老人の教えが正しかったことと、その教えに副って揉みから紙を扱ってきたことが正解だったと確認できました。

揉みから紙は、ひび割れた文様の静かで繊細な美しさを紙の上に表現したものです。その地味で控え目な表情は、作品をより一層際立たせる効果を生んでいます。和紙を指先で揉み、絵の具の剥落した様子を文様として捉える。朽ちてゆくものや自然のうつろいを大切にし、はかないものに美を見いだす、日本人独特の感性が生み出した伝統技法の賜物です。揉みから紙の美に魅せられつつ、これからも表具を通して感性を磨き続けたいと思っております。

（古内 都＠神奈川）

// 随想② //

兌下兌上（だかだしょう）

佐藤 順

2014 年 10 月、国内で最大規模の学会である電子情報通信学会（略して「信学会」）に新たなソサイエティ（分科会）が誕生した。「NOLTA ソサイエティ」である。「NOLTA」は「Nonlinear Theory and Its Applications（非線形理論とその応用）」の略である。

「非線形理論」は応用数学の一つで、生物界や社会の諸現象の解析に用いられる。信学会機関誌 2015 年 11 月号（vol.98 No.11）に特集『非線形理論とその応用』が組まれ、早大理工学院長大石進一の『総論』が掲載されている。その冒頭で以下のように述べている。

「通信技術は基本的に非線形性をいかに手なずけて、その中に線形な一部を構築するかに腐心してきた。しかし、生物や理工学的な現象は非線形の世界にある。これを真正面から捉えようとするのは、昔はタブーに近かったような気がするが、今や当然とみなされるようになっている。」(p.946)

私はこの文を見て疑問を感じた。約 40 年前の大学卒論（1974 年度）は、生体に非線形理論を応用したテーマだったからだ（横山隆三・星猛・佐藤順『生体内の流動反応吸収系のディジタルシミュレーション』、医用電子と生体工学、Vol.15 No.1、pp.23-30、日本 ME 学会、Feb.1977）。そのときは「タブー」だとは思わずに研究していた。当時、生体工学は「日本 ME 学会（ME: Medical Electronics and Biological Engineering)」が扱っていた。のちに「日本 ME 学会」は「信学会」に合併された。だから、この「タブー」は信学会か応用数学会といった学会コミュニティ内の「タブー」だったのでないだろうか。

養老孟司のエッセイ『ミステリー中毒』（双葉社、2003）の中に「原理主義と唯脳主義」がある。そこで次のように書かれている。

「まず学会というわけのわからないものがあって、問題自体を選別してしまう。そんなことをやっていると、出世の妨げになる。先輩どもが若者にそう教えるのである。その癖がしだいについてくるから、自分の疑問を追わず、正当かつ正統と学会に認められる疑問だけを追うようになる。（中略）与えられた疑問ばかり解いていると、自分で考えなくなるような気がする。（中略）自分で考えることを、なんとなく禁じるという習慣は、日本の世間に作りつけになっているような気がする。そういうことは考えてはいけない。主題によっては、間違いなくそう決められている。主題自体は禁じられていなくても、ある点から先を考えてはいけないというのは、もっとふつうに見られる禁忌である。なぜ考えてはいけないのかと思うが、パンドラの箱を開けてしまうような気がするのだろう。」(pp.299-301)

ここでも「禁忌（＝タブー）」が出てくる。科学や学問の世界で「タブー」は日本だけでなく西洋にもあった。コペルニクスやガリレオの「地動説」やダーウインの「進化論」である。なぜ「タブー」なのか？　それまで当然と思っていた学説や権威を否定するからである。権威とはなにか？　西洋では主に宗教だった。日本の場合は宗教の影響は少ない。日本では社会の権威が有形無形の枠を決めて「ここから出てはいけないよ」としているのでないだろうか。日本人は同調意識が強い。その空気（暗黙のルール、コミュニティの掟）を敏感にキャッチして自己規制をかけていると推察する。そこには「国際ルール」と日本独特の「ローカル・ルール」

があるように感じる。養老孟司の近著『文系の壁』（PHP 新書、2015）で、『科学は欧米型、生き方は日本型で』の項目では次のように述べている。

「日本の場合には「社会的適応」というのがあって、二十七、八で完成してくるのですね。その時期に、外国に行っていると、日本社会に適応できなくなるんです。それで喧嘩がしょっちゅう起こる。当人同士は気づかないんですが、日本型のシステムにピタッとはまっている人と、欧米型のシステムの常識をもって帰ってきた人の間で、いろいろなもめごとが起きる。だから、日本の社会で三十過ぎまで、ある程度仕事をして、落ち着いた段階で留学するほうがいいと思います。そうすると、向こう側に飲み込まれないんですよ。（中略）三十にもなれば、仕事でやっている理論と、日本社会に適応していく理論は別だなということがわかってくるんです。」(pp.200-202)

周易六十四卦(け)に「離下兌上（りかだしょう）」という言葉がある。「下からの力で打開するさまを示す」（漢字源）という。「兌」は穴を開けることを意味する。科学技術の「イノベーション」は既成を打ち破ることから始まる。これからの日本では、「タブー」を破るために「離下兌上」が求められる。前述の『文系の壁』で、養老孟司は次のように述べている。

「どん底に落ちたら、掘れ（中略）八方ふさがりに自分を追い込んじゃうというのも、結構いいんです。東に行っても西に行っても駄目、南に行っても北に行っても駄目。だったらどうするかというときに、僕が好きなイタリアの言葉があります。「ドン底に落ちたら、掘れ」というんです(笑)。普通、掘ることは考えない。でも、ほかに行けないとしたら、掘るしかないですよね。そうしたら、地面は意外に柔らかいかもしれない。どんどん掘ればいいんですよ。」(pp.89-90)

そこで私は「兌下兌上」という言葉を作ってみた。上だけでなく下に穴を開けるという意味だ。日本では上にも下にも穴を開けるのは、容易なことではない。

（佐藤 順＠千葉）

// 随想③ //

ホームズ、ドイルで遊ぶ

中西 裕

少し時間ができたのを幸いに未読の文学作品などの乱読をしています。また、少年時代から馴染みのシャーロック・ホームズの世界でも遊び続けています。ここでは物語の著者、アーサー・コナン・ドイルに関する内外の文献事情について少し書いてみることにしましょう。

英米でのドイル研究は緻密なものになっていて、成果は多くの文献として公刊されています。少し古いものも含め、伝記そのものは除いて、以下にいくつか挙げてみます。

(1)　*A Bibliography of A. Conan Doyle,* by Richard Lancelyn Green and Michael Gibson. Oxford, Clarendon Press,1983. (Soho bibliographies 23)

(2)　*A Chronology of the Life of Sir Arthur Conan Doyle*, by Brian W. Pugh. London, MX Publishing, 2009.

(3)　*Index to the Strand magazine, 1891-1950*, comp. by Geraldine Beare. Westport, Greenwood Press, 1982.

(4)　*Arthur Conan Doyle：A Life in Letters*, ed. by Jon Lellenberg, Daniel Stashower & Charles Foley. New York, Penguin Press, 2007.

ドイルの著作書誌である(1)は精密を極めていて、かつて『朝日新聞』紙上で百目鬼恭三郎がべた褒めしていたのを読んだ記憶がありますが、優れた書誌と書誌学が同根であることを明確に示した成果と言えるでしょう。

(3)はホームズ物語が掲載されたことで著名な“Strand Magazine”の索引です。なお、今日この雑誌はネット上で合本版が公開されていて、無料で見ることができます(https://archive.org/stream/TheStrandMagazineAnIllustratedMonthly/TheStrandMagazine1891aVol.IJan-jun#page/n1/mode/2up　2016.2.22 最終確認)。

ホームズがベイカー街の自分の部屋でピストルを撃って、壁に弾痕でヴィクトリア女王を意味する VR の文字をしるしたことが、「マスグレーヴ家の儀式」に書かれています。これには文学的祖先があることに前から気づいていました。プーシキンの『ベールキン物語』の中の「その一発」だろうと思うのです。部屋の中でピストルを撃つという行為を登場人物がしていますから。そのことを知ったうえで(3)に当たってみると、同誌の 1891 年 1 月創刊号に英訳が載っているのです。ドイルが読んでいた可能性は高いのではないでしょうか。そんなことがこの種の工具を使うと確認できるわけです。

ドイルの年譜をまとめたものが(2)ですが、これまた精密に記述されています。必ず出典を示し、異説もすぐにわかるように作られています。日本のものだと荒正人の『漱石研究年表』増補改訂版（集英社,1984）あたりを思い出していただければ近いでしょうか。

コナン・ドイルは 1930 年 7 月 7 日に、ウィンドルシャムという地で亡くなりましたが、その死亡時刻については 4 つの説があることがこの年譜を見ると分かります。8：17、8：30、9：15、9：30 がその説です。それがどうしたと言われると困りますが、調査とはそういうものなのだと答えておきましょう。

ドイルの書簡は千通ほどが British Library に残っているそうですが、そこから六百通を抽出して、解説を加えたのが(4)です。しかも、それが日本語に翻訳され、『コナン・ドイル書簡集』（日暮雅通訳　東洋書林,2012）として刊行されています。子どもの頃から 60 歳を越える頃までの母親宛の書簡が大部分で、親子の関係などがよくわかります。

ドイル家と近しい関係にあったミステリ作家ジョン・ディクスン・カーが、残された資料を使って伝記を書き、『コナン・ドイル』（早川書房,1962）として訳され、版を重ねていますが、資料自体は公開されていませんでした。書簡集を読むと、伝記として書かれていたことが裏付けられたり、より正確な事情が判明したりします。やはり一次資料に当たることは大切だと知らされるのです。

ホームズ物語を読むと、音楽についてあちこちで触れられています。ホームズがワーグナーを第二幕から聴きに行ったり、廉く買ったストラディバリウスで、よりによって『ホフマン』の舟唄を奏でたりします。こういった記述からは、どうも音楽については、この作家は詳しくなかったようだと想像されるのですが、書簡を読んでみると、大学に入る前に在籍していたオーストリアはイエズス会の学校でマーチングバンドに入り、「ボンバルドン」という名の楽器を演奏していたなどということが分かります。その楽器はテューバやユーフォニュームの仲間のようですが、そんな音楽的体験を持つ人だったとは意外でした。

1878 年 6 月にはノーマン・ネルーダのバイオリンをハレ指揮の演奏会に聴きに行っています。このときには音楽のことはまったく書かず、聴衆をすばらしいと褒めていますが、いったいどんな曲が演奏されたのか知りたいものです。この組み合わせの演奏をホームズたちが聴きに行く場面が後の『緋色の研究』に書かれました。1899 年には伯母からバイオリンの弓だけもらいました、バイオリンは自分で買わなければならないらしいと母親宛の手紙で諧謔気味に報告していますが、買ったという記述はありません。

家族旅行でパリを訪れたドイルはその地でマイアベーア作曲の『ユグノー教徒』を見ました。1888 年 11 月のことですが、特に感想なども記していません。このオペラへ行こうとホームズがワトスンを誘う場面も『バスカヴィル家の犬』の最後に出てきます。

ジェイムズ・バリーと一緒にドイルはコミックオペレッタを作りました。1893 年のことです。不評に終わったのですが、彼自身はギルバート＆サリヴァンのギルバートの作だって筋があってないようなものだと自虐的に母親に報告を書いているのです。

これらを見てもやはりそれほど音楽が身近にあったわけでもないようで、体験をもとに書いた作品にもそれなりの姿でしか音楽は登場していないというべきなのでしょう。

こんな風に遊んでいますが、趣味も徹底していくと研究になるのではないかと秘かに期待しているという次第です。

（中西 裕＠東京）

// 随想④ //

（この記事は非公開です）

// 近況報告 //

光陰矢の如し　上野滋男

光陰矢の如しとはよく言ったもので2007年に放送大学大学院を修了して早10年近く経ってしまいました。私は実家の印刷業を営んでいますが、当時は 40 歳になった頃でまだ社長になっておらず、時間に融通がききました。また、1992 年に現会長である父の提供により腎移植を受け、ちょうど 15 年ほどということで体調も良かったこともあり、順調に研究を進めることができました。大変幸運なことだったと思います。

その後社長に就任し、印刷業の厳しい環境もあり、社業に専念する日々となりました。また、次第に移植腎の機能も低下し、なかなか思うように自分の勉強を進めるというわけにはいかなくなりました。その中で、時間をやりくりしながら趣味の語学を細々と続け、2010 年に TOEIC990 点、2013 年に中国語検定 2 級を取得することができました。

TOEIC については、私の研究テーマであったディベートも、そもそも英語の勉強のために始めたという経緯もあり、その延長線上で受験したものです。世の中では様々な TOEIC 本が出版されており、どれを選ぶべきか迷う方も多いようです。しかし、数ある英語検定の中では最も対策しやすい試験でもあるため、事前に情報収集に努め、効率よく試験対策を進めることで比較的容易に高得点を取得することができます。一説には対策だけで 100 点近く点数を上げることができるとも言われています。私も定評のある参考書を使用し、広く流布しているテクニックなどを駆使して受験をした結果、取得することができました。自分の体験から、TOEIC は実際の英語の実力以上に点数が出る試験だと感じました。また、990 点を取得したことを機に、TOEIC の受験対策について講義して欲しいとのお話をいただき、何回か金融機関向けに勉強会をさせていただきました。

中国語については、10 年ほど前に台湾アイドルの歌を聴いて、興味を持ったことから学習を始めました。ずっと熱心に続けていたわけではありませんが、時間のあるときに継続してきた結果、2 級に合格することができました。しかし、英語と違い、ほぼ完全に独学で学習しているため、話すことはできません。爆買いなどで中国人観光客等の訪日も増加していることですから、今後は中国語を使う機会を見つけたいと思っています。

数年前から移植腎機能の低下が著しく、入退院を繰り返すようになりました。一昨年から年 2〜3 回は入院をしており、公私ともに思うに任せない日々が続いています。今年もすでに 1 月に入院しました。間もなく移植して 24 年を迎えますが、残念ながら今年は人工透析の再導入になるのではないかと思います。みなさんのように研究を進めることはできていませんが、このような状況で、仕事の合間を見つけながら、語学の学習を細々とでも続けていきたいと思っています。

（上野滋男＠東京）

2015 年度定期総会開催のご案内

会報をご覧になっている皆様へ。

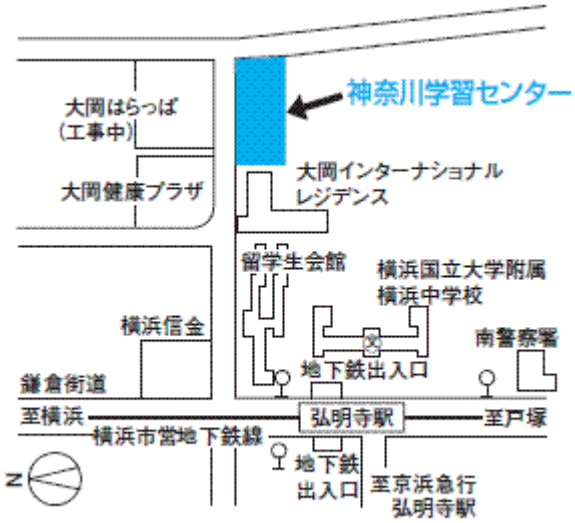
三無会（放送大学情報化社会研究会）の定期総会について、ご案内致します。

来る 6 月 4 日（土）午後 2 時から 4 時過ぎまで、放送大学神奈川学習センター（神奈川県横浜市南区大岡 2-31-1）にて開催します。総会では例年通り、1 年間の活動報告、会計報告のほか、今後の活動提案などについてディスカッションを行います。

また近々、発行・お届けされる予定の機関誌『情報化社会・メディア研究』誌に掲載された論考の中から、その内容を口頭発表頂く研究報告も行われる予定です。例年、総会終了後には横浜市内の弘明寺・野毛エリアなどに会場を移動して簡単な懇親会も開催しております。

総会議案書などの詳細については後日、ご登録されている弊会メーリングリストにてお知らせして参ります。お忙しいことと存じますが是非、ご参加くださいませ。

放送大学情報化社会研究会
会長　大津昭浩



（放送大学 HP より）

編集後記

今回も多くの方々から投稿していただき、充実した内容になりました。機関誌『情報化社会・メディア研究』も、大野編集長の奮闘のおかげで目下印刷にかかっており、今年度中には発行される見通しです。「会報」の制作をしてくださっている志藤さんが、この 3 月に大学を卒業される娘さんとアイスランドを旅行した際、見事なオーロラに遭遇したと、娘さんが撮影されたオーロラの写真を現地から送ってくださいましたので、皆さんにもお裾分けいたします。時を同じくして、アイスランドで撮影された、まるで火の鳥が飛び立とうとする姿のようなオーロラの写真が海外で話題になり、日本のテレビでも取り上げられました。もしかしたら、お二人が遭遇したのも、同じ夜のオーロラだったかもしれません。　　柏倉康夫

撮影：志藤麗

放送大学情報化社会研究会 会報　第 4 号

2016 年 3 月 22 日発行　編集：柏倉康夫　制作：志藤聡子　　http://ua-mis.mints.ne.jp/seminar/